

出前授業(伊是名・伊江・多良間)

土地改良総合事務所では、伊是名村、伊江村(国営完了地区)及び多良間村(全計地区)の小学校において、出前授業を実施しました。

沖縄県の島嶼においては、農業が基幹的産業として展開されているところが多く、日本の農業を取り巻く状況や食のはなしを学ぶことで、離島の将来を担う児童に農業に対する関心を高めてもらい、農業農村整備事業の役割や重要性について理解を深め、島の発展に繋げてくれることを期待しています。

伊是名小学校

令和7年 11月5日(水)

▶室内学習 ～食べ物のはなし、地下ダムのはなし、伊是名村土地改良区とは～

室内学習をとおして、現在の日本における農業や食料自給率の状況や伊是名島の農業を豊かにするために作られた地下ダムなどの施設や、施設を管理する伊是名村土地改良区の重要性を説明しました。

室内学習の中で、児童たちは講師の問いかけに積極的に答えたり、一生懸命メモをとったりと非常に高い興味、関心をもって学習に取り組んでいる様子が見られました。



室内学習の様子

▶現地学習 ～千原第一副貯水池、千原取水機場、千原貯水池～

伊是名土地改良区職員の案内により、千原第1副貯水池、千原取水機場及び千原地下ダム(地表貯留部)を現地見学し、各施設の役割や農業用水の実際の動き、改良区職員の業務について説明がありました。

当日は生憎の雨天で、取水機場を除いてはバス内からの見学となりましたが、室内学習で聞いた施設を現地見学で見ることで、より施設への理解が深まっている様子が見られました。



現地学習の様子

今回の出前授業を通して、普段、児童たちが食べ物や地下ダム、土地改良区の役割について学び、伊是名の農業について関心をもつきっかけになることを期待しています。

伊江小学校・西小学校

令和7年 12月 10日(水)

▶室内学習 ～食べ物のはなし、地下ダムのはなし、伊江土地改良区とは～

伊江小、西小合同で行った出前授業では、はじめに身近な食べ物について、普段の食事や給食を通し、伊江島や日本で生産されている作物、外国から輸入される作物を紹介し、食べ物と農業のつながりがあること、作物の生育には「水」が欠かせないこと、その「水」を得るために、川の無い伊江島では、地下ダムによって「水」が確保できたことなど詳しく説明をしました。

さらに、伊江土地改良区の職員が日頃どのように農業水利施設を管理しているのか、その仕事内容を紹介。そして地下ダムの水を活用した「水あり農業」が実現したことによって、農作業の負担軽減、干ばつ被害の防止、多様な作物の生産拡大が可能になったことを学びました。スクリーンを見ながら、真剣に説明を聞く児童たちの表情が印象的でした。



室内学習の様子

▶現地学習 ～止水壁(レプリカ)、2号ファームポンド、ほ場での散水見学～

現地学習では、止水壁のレプリカを用いて構造や工事の方法、施工機械について説明しました。児童たちはレプリカを間近で見学し、「どれくらいの深さに埋まっているのか」、「工事で難しかったことは」などの質問を積極的にしていました。

その後、2号ファームポンドへ移動し、地下ダムからくみ上げられた水が貯水されている様子を見学しました。水量について質問があり、「プールの約3,900倍の量」と答えると、児童たちは驚いた様子でした。



止水壁(レプリカ)見学

さらに、隣の畑でスプリンクラーによる散水の様子も見学しました。参加した児童からは、「地下ダムについて理解できた」、「川がないのに水がどこから来ているかわかった」などの感想が寄せられました。

今回の出前授業を通じて、児童たちが伊江島の地下ダムや土地改良区の役割を学び、伊江島の農業に関心を持つきっかけになればと思います。



集合写真

多良間小学校・中学校

令和7年 12月4、5日(木、金)

▶**多良間中学校)現地学習 ～国営事業計画概要、多良間の農業の展望～**

令和7年12月4日、多良間中学校の生徒を対象に、来年度着工を目指す国営土地改良事業「多良間地区」の概要や多良間島の将来の農業について説明しました。水あり農業の実践を目指す本事業を地元の子供達にも理解してもらうことを目的に、初めて中学生を対象とした出前授業を行いました。事業計画の概要では、造成される施設の役割等について、多良間島の将来の農業では、「水あり農業」による農業生産性の向上、農業経営の安定化及び高収益作物の生産拡大に繋げて行くことなどを説明しました。参加した生徒からは、「ファームポンドの完成が楽しみ」、「多良間島にあまり農業をしている若者がいないのでこれからは畑の手伝いに行きたい」などの感想が聞かれました。今回の出前授業で、多良間島での農業に興味を持ってもらい、将来多良間島へUターンするきっかけになることを期待しています。



室内学習の様子(中学校)

▶**多良間小学校)室内学習 ～食べ物の水のはなし、多良間島の水のはなし～**

令和7年12月5日に多良間小学校4年生を対象に、日本の食料自給率や多良間島の唯一の生活用水源である「淡水地下水層」について説明しました。多良間島の農業用水は降雨に依存しており、ため池の貯留量も多くないため、水を大切に使うこと、ゴミを捨てないでため池及び地下水の水質を守ってほしいことを伝えました。



室内学習の様子(小学校)

▶**多良間小学校)現地学習 ～観測井戸、グリーンベルト設置～**



ベチバー植付けの様子

現地学習では、最初に地下水観測井戸を見学しました。児童達は、うつ伏せになってのぞき込むなど、普段は目にするのでできない地下水に興味津々でした。次に、ベチバーによるグリーンベルト設置体験を行いました。この活動は、耕土が浅い多良間島で、土壌保全や、水路の機能維持等の重要性について、理解を深めてもらうことを目的に毎年実施しています。多面的機能支払交付金の活動組織や農家の協力の下、ベチバーの植付けを楽しみつつ、作業を行いました。

※ベチバーはインド原産のイネ科植物で、土壌保全の他に精油として利用されています。

参加した子供達からは、「自分たちの島で作られたものを食べていきたい」、「地面の下に淡水地下水層があることは知らなかった」などの感想が聞かれました。今回の出前授業で子供達が多良間島の水や土壌保全の大切さを知り、農業について関心を持つきっかけになることを期待しています。